

<b>授業科目名</b>	異文化コミュニケーション(2100146)		
<b>時間割名</b>	異文化コミュニケーション(32107)		
<b>時間割担当</b>	熊田岐子		
<b>実施期</b>	前期	<b>単位数</b>	2 選択
<b>曜日・時限</b>	水・2		

### 授業の目標・概要

異文化コミュニケーション理論の基礎的な知識と、現代日本社会と関連させた上での異文化コミュニケーションの意義について講義する。具体的には、社会学の一潮流をなすシンボリック相互行為論の観点から、文化とコミュニケーション、異文化理解と異文化コミュニケーション、文化接触と文化混交の基本的な理論を扱う。また、現代日本社会のコミュニケーション問題に触れつつ、異文化・異民族コミュニケーションの諸実践について紹介する。本講義は、現代日本社会に生きる人びとが異文化の他者とコミュニケーションする上での基礎的知識の習得を目的としている。

### 学習の到達目標

本授業では、文化とは何かという基礎的な部分から始まり、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションに分けて、それぞれの文化間摩擦について考えることを目指していく。さらに、文化間における価値観の違いなどの観点から、コミュニケーションの取り方の相違を学び、円滑にコミュニケーションをとるための方法を探る。

### 授業方法・形式

学生参加型であり、ペアワークやグループワークを行い、各回のトピックに関連するタスクをこなしていく。

### 授業計画

- 第1回：授業概要説明，異文化とは何か？
- 第2回：文化とコミュニケーション、ステレオタイプ
- 第3回：高コンテクスト社会、低コンテクスト社会
- 第4回：パラ言語
- 第5回：言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
- 第6回：ほめ方、叱り方
- 第7回：英語の敬語
- 第8回：表情・アイコンタクト
- 第9回：ジェスチャー、接触
- 第10回：空間・時間の感覚
- 第11回：基本価値志向
- 第12回：対立管理スタイル
- 第13回：エンパシーとシンパシー
- 第14回：DIEメソッド
- 第15回：アサーティブコミュニケーション、まとめ

### 成績評価の基準

定期試験50%、小テスト・課題35%、授業貢献15%

### 授業時間外の課題

授業後に授業範囲を再度読み込むこと、また担当教員より課された課題の提出準備をすることが必要になる。

### メッセージ

本授業は、英会話・英語とテレビに見る異文化、教育と日本の伝統文化入門など文化を扱う科目が関連します。私たちの周りには、異文化コミュニケーションに関わる事柄に溢れています。普段から、テレビや新聞などを見て、文化とは何か、文化間の摩擦と軽減とは何かを考えるようにしましょう。

### 教材・教科書

『異文化コミュニケーション・ワークブック』三修社

### 参考書

『異文化トレーニング：ボーダーレス社会を生きる』三修社